

夕張高等学校の魅力化に対する

# 要 請 書

平成27年12月10日

夕張市高等学校対策委員会

夕張市長 鈴木直道 様

本市教育の振興につきましては、日頃より格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成24年12月に夕張市内の生徒数の減少を踏まえ、北海道夕張高等学校（以下「夕張高校」という。）の今後の在り方について、より良い方向性を考えるため「夕張市高等学校対策委員会」を発足させました。

この間、対策委員会は11回の検討協議、地域キャンパス校視察（北海道厚真高等学校、北海道平取高等学校）、2回の北海道教育庁新しい高校づくり推進室による説明会、更には北海道教育委員会への要請活動等を通して夕張高校の学級削減（案）や、教育条件整備に対応してきたところであります。

本年4月の夕張高校新1年生の間口は2学級確保されていましたが、結果的に39名となり、全学年が1学級となったところであります。

夕張中学校を卒業する生徒数の減少、地元夕張高校への進学率の減少を踏まえ、このままでは「地元から高校がなくなる」ことに危機感を覚えざるを得ません。

本委員会としては、本年度地元進学率の低下要因、地域から高校がなくなることの重大さ、より一層の地域人口の減少への危惧等々から、今後の「夕張高校の魅力化」は、夕張の

未来を担う人づくりでもあり、この問題への取り組みを今日まで進めてきたところであります。

市の「夕張高校魅力化検討ワーキンググループ」の5回にわたる検討結果（市長への提案）、同時並行的にP T Aを含めて夕張高校の「夕張高校の目指す教育」（市WGとの連携）の取り組みが報告され、本会でもその方向性を確認、応援することを決定したところであります。

今、北海道の地方都市は、どの地域も人口減少、児童生徒の減少に悩み、「地域の高校の在り方」について様々な動きを見せています。

本市においても、今求められているのは「小学校、中学校、高等学校、そしてP T Aや市が連携して、子どもたちにとって希望の持てる魅力ある学校づくりをすること」であり、喫緊の課題でもあります。

「夕張高校の目指す教育」に関わり、資格取得や模擬試験の補助等々、特段のご支援を賜りたく強く要請するものであります。

平成27年12月10日

夕張市高等学校対策委員会  
委員長 小林 信 男